

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 8 日現在

機関番号：32816

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26590166

研究課題名(和文)ジュニア期の地域スポーツにおけるスポーツハラスメント防止プログラムの開発

研究課題名(英文)Development of sport harassment of prevention program in community junior sports

研究代表者

藤後 悦子(Togo, Etsuko)

東京未来大学・こども心理学部・教授

研究者番号：40460307

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、スポーツに関わるいやがらせを「スポーツハラスメント」ととらえ、親要因を含めたスポーツハラスメントモデルを構築し検証した。1年目は、スポーツペアレンティングや親同士の人間関係に関するレビューを行い、続いて質的調査として親インタビューとコーチインタビューを実施した。2年目は、量的調査として親および親を対象としたオンライン調査を実施した。3年目の最終年度は、アメリカ人の地域スポーツのコーチを交え、アメリカの現状と日本の現状の比較を行った。最後に1年目、2年目の調査結果とアメリカでの現状を踏まえスポーツハラスメント防止のためのオンライン教材を開発し社会的還元を行った。

研究成果の概要(英文)：Children's community sports require the assistance of parents, such as in overseeing practice and in transportation to and from game venues; this implies that parents are deeply involved with the teams. Parents have both positive and negative experiences with respect to their children's sports. The present study aimed to develop a model of sport-harassment, which includes parents of the team as an important factor. In the first year, we conducted a literature review and qualitative research (interviews) on parents and coaches in order to develop a model. In the second year, we conducted an online survey among parents and that among coaches, in order to examine the models. In the final year, we got information about community sports in the US where community sports are more popular, by talking with some coaches and inspecting some teams. At the same time, we made a lecture video for parents and volunteer coaches, respectively, which everyone can see on the web.

研究分野：コミュニティ心理学

キーワード：スポーツ・ハラスメント スポーツ・ペアレンティング 地域スポーツ 親のトラブル オンライン教材

1 . 研究開始当初の背景

2012 年 12 月のバスケット部桜宮高校の自殺事件以後も相次ぐ体罰問題の現状を受け、文部科学省はスポーツ暴力根絶、被害相談のための第三者機関を立ち上げた。平成 25 年度 4 月には各種競技団体による「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」が提唱され、指導者の資質向上が急務となっている。特にボランティアの指導者や親の協力で支えられているジュニア期の地域スポーツは、熱意・善意という名のもとにハラスメントが横行しやすく、指導者のみでなく親も巻き込んだハラスメント防止のための予防的介入が急務である。

勝利至上主義の集団価値を持ったスポーツチームでは、叱咤激励という名のもと指導者によるハラスメントが未だ横行している。特にジュニア期の地域スポーツは、親の協力なしには成立しないため、親集団をも巻き込んだスポーツ・ハラスメントが展開しやすい。指導者によるスポーツ・ハラスメントは、いじめの 4 層構造と同じように、指導者を取り巻く親や子どもたちの容認行動により支えられており、また親集団そのものもスポーツ・ハラスメントの加害者になりうるのである。

通常親同士の関係性は、ソーシャルサポートとして機能する反面、選手起用やチームの勝ち負けに関わるスポーツ場面では、親同士の利害関係が発生しやすく、指導者のハラスメントを容認する傾向がある(藤後, 2011)。親達の容認行動は、実力不足の子どもとその親に対して行われやすく、さらには関係性攻撃に移行しやすい。このようなスポーツ場面における指導者、親同士、子ども同士の関係性の悪化は、学校生活など様々な場面にも悪影響を及ぼすのである。しかしながら、親要因を含めたスポーツ・ハラスメントモデルの検証は、ほとんどなされておらず、地域スポーツにおけるスポーツ・ハラスメント防止のための介入研究も見当たらない。地域スポーツは、監視機関が少ないために問題が顕在化しやすく、だからこそ問題が発生する、または深刻化する前に早期介入が求められるのである。

2 . 研究の目的

このような現状を受け、本研究では、はじめにスポーツにおける体罰をスポーツ・ハラスメントという概念で取り上げ、指導者、親、子どもそれぞれのスポーツ・ハラスメント因果関係モデルを構築し検証する。次に、それらを踏まえた指導者用、親用、子ども用のスポーツ・ハ

ラスメント防止プログラムとメディア教材(DVD も含む)を開発し、スポーツ・ハラスメントの予防的介入を行うことを目的とする。

3 . 研究の方法

H26 年度は、国内外のハラスメントやいじめ防止プログラムの分析を行った。それと同時に、前年度行った調査を分析したり、スポーツ経験のある、親、指導者を対象にインタビューを行ったりすることでスポーツ・ハラスメントの現状分析や概念モデルを構築した。H27 年度は、概念モデルを検証するためにオンライン調査を行い、親要因を含めたスポーツ・ハラスメントモデルを検討した。H28 年度は、H26 年 H27 年の結果を受け、スポーツ・ハラスメント防止プログラムとして親対象および、指導者対象のメディア教材を開発し公開した。

(1) 文献調査

スポーツ・ペアレンティングに関するレビュー
地域スポーツに関わる親同士の関係に関するレビュー

(2) 親対象の調査を実施

インタビュー調査：
調査期間：H26 年 6 月～11 月
対象者：地域スポーツの経験がある小学校高学年の母親 8 名
オンライン調査 1 回目：
調査期間：H26 年 3 月
対象者：地域スポーツの経験がある小学校 4 年生から高校生の子どもの持つ父親 300 名
および母親 600 名
目的：地域スポーツの経験がある保護者を対象に、地域スポーツに関わる中でどのような肯定的・否定的な経験をしているのかを探索的に検討するため。

オンライン調査 2 回目
調査期間：H28 年 3 月
対象者：地域スポーツの経験がある小学校 4 年生から高校生の子どもの持つ母親 500 人
目的：地域スポーツのどのようなチームでや保護者のハラスメントが起こりやすいか、チームの競技レベルや種目等の環境的側面、また、人間関係の要因等について検討するため。

(3) 指導者対象の調査を実施

インタビュー調査
調査期間：H27 年 3 月～12 月
対象者：指導者 8 名(男性 4 名、女性 4 名)
目的：地域スポーツにおいて中心的な役割を果たしているスポーツ少年団とその類似組織の指

導者が抱える問題を把握することを目的とする。

オンライン調査 1 回目

調査期間：H27 年 1 月

対象者：全国の地域スポーツ（小学生対象のボランティアに近いスポーツ団体）の指導者を過去 5 年以内に 1 年以上務めた経験があり、その種目が地域スポーツとしてよく見られる野球・バスケットボール・サッカー（含フットサル）・バレーボールのいずれかにあてはまる者 150 名
目的：地域スポーツの振興のための条件を探するために、地域スポーツの指導者がやりがいを感じている内容および困難を感じている内容を知ること。自由記述中心。

オンライン調査 2 回目

調査期間：H27 年 10 月

対象者：全国の地域スポーツ（小学生対象のボランティアに近いスポーツ団体）の指導者を過去 5 年以内に 1 年以上務めた経験があり、その種目が地域スポーツとしてよく見られる野球・バスケットボール・サッカー（含フットサル）・バレーボールのいずれかにあてはまる者 463 名（男性 419 名、女性 44 名）

目的：どのような地域スポーツの指導者が指導者としての自分に満足し、今後も継続したいと考えているのかに関しても因果関係を検討すること。

4. 研究成果

(1) 文献調査

スポーツ・ペアレンティングに関するレビュー論文

本研究は、今まであまり取り扱われてこなかった小学生の地域スポーツを取り巻く親の対人関係についてその特徴と問題について概観することとした。はじめにスポーツ選手の親の特徴を述べ、親と指導者の関係と親同士の関係をポジティブな側面とネガティブな側面に分けて論じた。親と子の関係については過干渉について、同一化や自己愛の概念を用いて述べていった。最後に子どものスポーツとの関わりに求められる親の態度として、地域スポーツを取り巻く現状理解、指導者と親との協働、親同士の役割分担の明確化、子どもとの適切な距離感の必要性が指摘された。併せて親教育の心理教育プログラム開発について議論された。

地域スポーツに関わる親同士の関係に関するレビュー論文

地域スポーツは、親が深く関与するために、親同士の関係が展開される。肯定的な関係とし

ては、いわゆる子育て仲間とのネットワークが広がるという側面がある。このように子育て期の対人関係という視点からスポーツにまつわる関係を考察した。

子育て期の母同士の関係は同調性が強いことが述べられ、子ども同士の関係があるために大人同士の距離感は通常の社会場面での距離感の取り方より難しいことが示唆された。

(2) 親対象の調査の結果

インタビュー調査

本研究では質的調査として、親が子の地域スポーツを通してどのようなネガティブな経験を有しているのかを明らかにし、よりよいチーム環境を構築するための条件を検討することを目的とした。M-GTA を用いて分析した結果、「子の競技活動に関する問題」「指導者に関する問題」「自身の生活と子の活動のバランスの難しさ」「父親の干渉・期待の問題」「役割や当番関係の問題」「保護者同士の関係の問題」の 6 カテゴリーが抽出された。これらの結果から、親を対象とした教育的な介入の必要が示され、今後のスポーツ環境への提言を示した。

オンライン調査 (1 回目)

地域スポーツ運営のために果たす役割の大きい保護者が地域スポーツに関わる中でどのような肯定的・否定的な経験をしているのかを探索的に検討した。その結果、子どもの経験した否定的な体験（推測）では、子ども本人の実力や勝ち負けについての記述が多いが、指導者や仲間からのハラスメントも計 20% 見られた。また、保護者自身の否定的な体験について「なし」との回答が半数ほどあったものの、残りは何らかの経験を挙げた。その内容として、指導者との関係および同チームの保護者同士の関係が最も多く挙げられた。

さらに、環境要因として指導者、仲間、応援席からのスポーツ・ハラスメントの被害およびサポート、個人要因としてスポーツ・ペアレンティング、親の子どもへのスポーツ同一化、わが子中心主義、勝利至上主義を取り上げ、これらが子どもの神経症的傾向を通してスポーツモチベーションにどのように影響を与えているのかを検討した。

オンライン調査 (2 回目)

第 1 回目のオンライン調査の結果を踏まえ、どのようなチームで指導者や保護者のハラスメントが起こりやすいか、チームの競技レベルや

種目等、環境的側面に焦点をあて、その要因について探索的に検討した。種目、および競技レベルを独立変数、ハラスメントの各尺度と母/子の満足度を従属変数として、2 要因の分散分析を行ったところ「指導者ハラスメント」では、競技レベルと種目それぞれに有意差が見られた。チームの競技レベルが低いよりも高いチームの方がハラスメントが多く、サッカーよりも野球、バスケットボールでハラスメントが多いことが分かった。次に、保護者によるハラスメントについて、競技レベルと種目の有意差が見られ、チームの競技レベルが低いよりも高いチームの方がハラスメントが多く、サッカー、バレーボールよりも野球、バスケットボールでハラスメントが多いことが分かった。

さらに、場面想定法を用いて応援席ハラスメントの起こりやすい条件について検討した。母親 500 名にミニバスでミスをする場面を読ませ、失敗した子どものチームメイトに対して応援席にいる自分が行う反応を推測させた。その際、親同士の親しさ、子同士の親しさ、その子の競技レベルを操作して、違いを検討した。その結果、否定的言動は少ないが、否定的な思考が見られた。また野次や舌打ち等ハラスメント的な行動については、競技レベルが高い女兒に対して最も見られた。女兒が同一化が高く、ハラスメント的な行動がやる気を高めると解釈されているのではないかと。

(3) 指導者対象の調査の結果

インタビュー調査

本研究では、地域スポーツの指導者を対象にインタビュー調査を行った。分析の結果、指導者が直面している問題として、以下の3点が明らかとなった。

1 点目は「組織マネジメント」に関する内容で、「活動場所の確保」・「運営予算の確保」・「後進のコーチ育成」といった問題があげられた。2 点目は「指導技術」に関連する内容で、「落ち着いた子どもとの関わり方」、「親への協力要請」、「選手起用の説明責任」といった内容が見られた。3 点目は「人間関係」に関する内容が見られ、「親同士の人間関係」、「親との人間関係」、「チーム内の他の指導者との人間関係」、「他のチームの指導者との人間関係」といった内容が見られた。

オンライン調査(1回目)

本研究は、地域スポーツを支える指導者経験者を対象に調査を行った。そして、どのような

形態で指導者をしており、導く上でどのような工夫をしており、その経験の中でどのような喜びや困難を感じているかを尋ねた。

その結果、喜びを感じる状況として、全体的に子どもの成長(心身、チームワーク)が多く挙げられ、次にチームの勝利・試合内容、子どもの楽しさ・元気が挙げられた。指導者としての達成感、感謝の言葉等指導者本人に関する言及もあつたものの数は少なかった。指導者たちが子ども本位に活動していることが伺える。一方、指導者を行う上での困難として、親との人間関係および子どもの性格・特性(わがまま、真剣みがないなど)が多く挙げられた。

オンライン調査(2回目)

本研究は、地域スポーツで指導者役を担っている 456 名に対して online 調査を行った。その結果、指導者資格所持者は 20% 以下であり、指導者の知識や指導力も、その種目の知識や技術も、子どもの心身の発達についての知識も不足していると感じていることが判明した。また、チームの競技レベルが高いほど、家庭に満足しているほど、また指導者としての自信が高いほど、指導者としての向上意欲が強いことが示された。

さらに、継続意図がどのような要因により説明されるかを検討した。その結果、指導者としての自信が、指導者としての満足感を高め、それがさらに継続意図を高めるといふ、海外のより競技的なチームの指導者対象の先行研究と同様の結果を得た。これに加え、子どもの成長を感じるほど、満足感が高まり間接的に継続意図が高まることや、親との人間関係に困難を感じるほど、継続意図が低まることわかった。地域スポーツ外での生活満足度も継続委に影響していたが、指導者収入は保護者を兼ねている指導者では影響せず、保護者ではない指導者でも影響は小さかった。

地域スポーツに欠かせない指導者が、今後もボランティアを続けるための条件が議論された。

5. 主な発表論文等(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 14 件)

1) 大橋恵・井梅由美子・藤後悦子 地域スポーツにおける親子の喜びと傷つき：自由記述法による検討、東京未来大学研究紀要、査読無、8, 2015, 27-37.

- 2) 井梅由美子・藤後悦子・大橋恵 成人期における対象関係と発達の変化：青年期との比較から 東京未来大学研究紀要, 査読無, 8, 2015, 1-11.
- 3) 藤後悦子・井梅由美子・大橋恵 スポーツにおけるポジティブ体験・ネガティブ体験とスポーツ・ハラスメント容認志向 東京未来大学研究紀要, 査読無 8, 2015, 93-103.
- 4) 藤後悦子・井梅由美子・大橋恵・川田裕次郎 子育て期における友人関係の葛藤未来の保育と教育, 査読有 2, 2015, 61-68.
- 5) 藤後悦子・井梅由美子・大橋恵 子どものモチベーションを高めるスポーツペアレンティング こども環境学研究, 査読有, 2015, 34(2), 41-47.
- 6) 大橋恵・藤後悦子・井梅由美子・川田裕次郎 地域スポーツの指導者が直面している課題：指導者の指導力向上に向けて スポーツ産業学研究, 査読有, 2016, 26(2), 243-254.
- 7) 大橋恵・井梅由美子・藤後悦子・川田裕次郎 地域スポーツのコーチのやりがいと困難の内容：尺度の作成を目指して 未来の保育と教育, 査読有, 2016, 3, 19-28.
- 8) 藤後悦子・井梅由美子・大橋恵 過去の傷つき体験の想起と子育て期の対人関係 コミュニティ心理学研究, 査読有, 2017, 20, 184-197.
- 9) 大橋恵・井梅由美子・藤後悦子・川田裕次郎 地域におけるスポーツのコーチの喜びと困惑：コーチ対象の調査の内容分析 コミュニティ心理学研究, 査読有, 2017, 20, 226-242.
- 10) 大橋恵・井梅由美子・藤後悦子 日本の地域スポーツにおける指導者の持つ選手選抜基準 東京未来大学研究紀要, 査読有, 2017, 10, 17-26.
- 11) 井梅由美子・藤後悦子・大橋恵 地域におけるジュニアスポーツの持つ現状と課題 東京未来大学研究紀要, 査読有, 2017, 10, 167-176.
- 12) 藤後悦子・大橋恵・井梅由美子 スポーツ・ペアレンティング尺度とスポーツ・ハラスメント尺度の作成 東京未来大学研究紀要, 査読有,

2017, 10, 109-119.

13) 藤後悦子・井梅由美子・大橋恵 チームでのネガティブな人的環境が小学生のスポーツモチベーションに与える影響 モチベーション研究, 査読有, 2017, 6, 17-28.

14) 藤後悦子・川田裕次郎・井梅由美子・大橋恵 小学生の地域スポーツにかかわる親のスポーツ・ペアレンティング コミュニティ心理学研究, 査読有, 2017, 21, ページ未定

〔学会発表〕(計 16 件)

1) 井梅由美子・藤後悦子・大橋恵 2014 成人期男女の対人関係のあり様と関係性トラブルについて：子どものチームスポーツでの保護者同士の関係に着目して 日本コミュニティ心理学会第 17 回大会発表論文集, 80-81.(京都)

2) 井梅由美子・藤後悦子・大橋恵 2014 地域スポーツにおける指導者・仲間・親の関わり：小学生を対象としたチームスポーツに焦点を当てて 日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 1146.(京都)

3) 藤後悦子・大橋恵・井梅由美子 2014 中学時代の運動部における指導者の影響(1)：チーム制と個人制との比較 日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 1148.(京都)

4) 大橋恵・井梅由美子・藤後悦子 2014 中学時代の運動部における指導者の影響(2)：チーム制スポーツ経験者に特化して 日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 1150.(京都)

5) 大橋恵・井梅由美子・藤後悦子 2014 地域スポーツにおける指導者・仲間・親の関わり(2)：チームを支える保護者同士の人間関係に影響する要因についての探索的検討 日本教育心理学会第 56 回総会発表論文集, PH087.(兵庫)

6) 藤後悦子・井梅由美子・大橋恵 2015 小学生の地域スポーツで親子が追い込まれていくプロセス：子どもの性別による多母集団同時分析を通して 日本コミュニティ心理学会第 18 回大会発表論文集, 82-83.(東京)

7) 大橋恵・藤後悦子・井梅由美子・川田裕次郎 2015 地域スポーツのコーチの喜びと困惑：チー

ム・スポーツのコーチ対象の予備調査 日本教育心理学会第 57 回大会発表論文集, 444.(新潟)

8)藤後悦子・三好真人・井梅由美子・大橋恵・川田裕次郎 2016 子どもの地域スポーツに親が抱える問題: 母親対象のネガティブな体験に関するインタビューから 日本コミュニティ心理学会第 19 回大会発表論文集, 94-95.(栃木)

9)大橋恵・藤後悦子・井梅由美子 2016 地域スポーツにおける子どものチームメイトのミスに対する保護者の反応: シナリオ法によるスポーツ・ハラスメントの検討 日本コミュニティ心理学会第 19 回大会発表論文集, 96-97.(栃木)

10)井梅由美子・大橋恵・藤後悦子 2016 地域スポーツにおけるスポーツ・ハラスメントの要因とチーム参加への満足度について 日本コミュニティ心理学会第 19 回大会発表論文集, 98-99.(栃木)

11)川田裕次郎・大橋恵・井梅由美子・西田敬志・藤後悦子 2016 地域スポーツの指導者の直面している 問題の把握: 質的分析アプローチ 日本コミュニティ心理学会第 19 回大会発表論文集, 100-101.(栃木)

12)Ohashi, M.M. & Togo, E. 2016 What is an ideal relationship between parents and coaches? : Psychology of community sports clubs in Japan and in the US 31st International Conference of Psychology でのシンポジウム

13)Ohashi, M.M., Kawata, Y., Iume, Y., & Togo, E. 2016 An on-line survey of factors encouraging motivation of coaches in community based junior sport clubs in Japan ICP 31st paper presentation.

14)Togo, E., Iume, Y., Kawata, Y., & Ohashi, M.M. & 2016 An on-line survey of factors enhancing sports-harassment by coaches in community based junior sport clubs in Japan ICP 31st paper presentation.

15)Iume, Y., Ohashi, M.M. & Togo, E., & Kawata, Y. 2016 An on-line survey with parents on problems faced by community based junior

sport clubs in Japan ICP 31st poster presentation.

16)Ohashi, M.M., Togo, E., Kawata, Y., & Iume, Y. 2016 Content Analysis and Survey of Positive and Negative Experiences of Coaches in community based junior sport clubs in Japan 23rd IACC P poster presentation.

【報告書】(計1件)

藤後悦子・大橋恵・井梅由美子 2017 平成 26 年～平成 28 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 挑戦的萌芽研究 ジュニア期の地域スポーツにおけるスポーツ・ハラスメント防止プログラムの開発成果報告書 東京未来大学

【その他】

スポーツ・ハラスメント防止プログラムの動画教材開発

指導者向け: 「Player's First ~ スポーツ・ハラスメント防止に向けて ~ (指導者向け)」
http://www.z-3.co.jp/hamamoto/tkymirai_2017/info/research/subsidy.html#con9_1

保護者向け「Player's First ~ スポーツ・ハラスメント防止に向けて ~ (保護者向け)」
http://www.z-3.co.jp/hamamoto/tkymirai_2017/info/research/subsidy.html#con9_2

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤後 悦子 (Togo, Etsuko)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号: 40460307

(2) 研究分担者

大橋 恵 (Ohashi, Megumi)
東京未来大学・こども心理学部・准教授
研究者番号: 30454185

井梅 由美子 (Iume, Yumiko)
東京未来大学・こども心理学部・講師
研究者番号: 30563762

川田 裕次郎 (Kawata, Yujiro)
順天堂大学・スポーツ健康科学研究科・助教
研究者番号: 40623921